せたな町総合計画策定審議会「第1回産業経済専門部会」顛末書

- 1 日時 平成19年7月5日(木) 午前1時30分～午後3時30分
- 2 場所 せたな町役場第1委員会室
- 3 出席委員 6名
齊藤誠委員、内田尊之委員、正木孝義委員、奥村喜美雄委員、佐藤昌委員、二本柳均委員
- 4 欠席委員 4名
三上博則委員、加藤始委員、光銭浩委員、稲船国晃委員
- 5 せたな町出席者
道高副町長、小林瀬棚総合支所長、越野大成総合支所長
岡崎財政課長、岸田税務課長、丹羽出納室長、水野産業振興課長、市村産業建設課長(瀬棚)
(事務局)成田政策調整課長、福土課長補佐、吉田主任、白戸主事
- 6 会議の概要
 - (1) 事務局より今後の流れについて、レジメ2ページにより説明。
 - (2) 検討個表により、当専門部会が所管する項目(全18項目)の主な内容について確認した。

各委員からの主なご意見と回答

項目「農業経営」(検討個表 P2)

Q 法人経営育成の中で、農業法人が参入した場合と個人農家への支援を分けて明記すべきではないか。

A そのように整理する。

Q 稲作農家の法人化を視野に入れた支援を考えないと、将来的に農業力が低下する。町がリーダーシップを取り対策を講じるのか。

A 農協と協力しバックアップしたい。

Q アグリビジネスの振興とあるが、具体策はあるのか。

A 現在はない。先進地を例に対応することとなるが、せたな町では観光とのタイアップが考えられる。

項目「林業」(検討個表 P4)

Q 林業の振興の将来展望として、ブランド化の推進のほかに販売ルートの確保を明記すべきではないか。

A 販売ルートの確保については、木材の有効活用も視野に入れたものを検討したい。

項目「海岸保全」(検討個表 P8)

Q 太櫓海岸の浸食についてはどうなっているのか。

A この項目は漁港海岸のみ整理しているが、生活環境専門部会の項目で整理し

ている。

項目「エネルギー資源」(検討個表 P9)

Q 新エネルギーについて、新たな計画等はあるのか。

A 将来的な取り組みを想定しているが、現時点ではない。

項目「企業誘致・勤労者対策」(検討個表 P10)

Q 季節勤労者援護相談所はどのような内容で考えているのか。

A 就業に対する相談や情報提供などの支援を充実させたい。

項目「行政」(検討個表 P16)

Q せたな町の職員数の今後の方針は。

A 合併時 338 人に対し現在 208 人。同規模の町と比較して 80 人程度多い。約 16 億円の人件費を抑えるため、退職者の不補充等を行い、将来的には 200 人程度の職員数としたい。

項目「広域行政」(検討個表 P19)

Q 桧山管内も 7 町になり、熊石が八雲町と合併し分断された形になっているが、今後も現状のままで進めるのか。

A 消防は、人口 30 万人規模での広域体制とする国の指導があるが、地理的条件から困難な状況である。北海道では変更を認めない方針なので現状のまま継続する。

関連して、し尿処理の件について、今金町が H23 年からし尿の MICS 処理を単独で実施する予定であり、今後の方向性について協議が必要である。

7 その他

今後の作業

確認いただいた内容とご意見等をもとに、計画本体の策定に入りますが、その前段として、計画の枠組みなどをまとめた素案により策定作業の考え方を確認していただくため、7 月下旬ころを目処に第 2 回の専門部会を開催する予定です。改めてご案内いたしますので、ご出席賜りますようお願いいたします。